

Industrial Catalyst News

触媒学会工業触媒研究会

バイオ燃料等の動向

石油使われぬ燃料、新興国で

石油元売り各社が石油以外の原料から燃料をつくる新技術を開発し、海外で事業化に取り組む。コスモ石油は、細かく粉碎したパームやしの廃材を高温でガス化し、化学合成により軽油や灯油を製造する技術開発を NEDO から年約 2 千万円の事業費を受けて進める。実証試験でトヨタ自動車や産総研と協力。2015 年頃にマレーシアで実証設備を建設する計画。出光興産は燃料電池向けの燃料として草木を加工してエタノールやバイオガスを作り、そこから独自開発した触媒を使って水素を取り出す技術を確認した。燃料電池メーカーの協力を得て商業用設備の開発を進める。将来は送電線網が未発達な新興国向けに現地ですぐに使えるバイオマスを活用して地域ごとに発電設備を整備していく考え。

(日本経済新聞 2009/8/18)

DME アジアで普及機運

原油市況の変動を受けて LPG 補完燃料として DME に関心が集まっている。インドネシアやタイでは、民生用燃料に LPG の使用を進めているが、不足分を希釈で対応できる DME に注目している。DME は生産効率が良く、バイオマス由来の原料を用いれば CO₂ 低減にもつながる。安全性も高く、最近では欧州でも実用化に向けて検討が進んでいる。日本では、昨年、燃料 DME 製造(新潟市)を設立して供給体制が整い、ディーゼル自動車燃料としても期待されているが、家庭・業務用に使用する場合、高圧ガス保安法が適用され、普及の障害とな

っている。燃料 DME 製造ではアジア発のこうした機運が国内需要を喚起、法改正につながるのではと期待している。

(化学工業日報 2009/8/17)

E3 燃料一般向けに販売供給開始

環境省は、9 月 1 日から川崎市のガソリンスタンドで、一般車両を対象にした E3 (バイオエタノール 3%混合ガソリン) の販売供給を始めた。同省では日伯エタノール(東京都中央区)に委託して、今年度から首都圏でのエコ燃料実用化地域システム実証事業を展開、大都市圏での実用化に近い規模で生産・利用モデルを構築するための実証事業を行っている。今回の販売によって、E3 の管理手法や社会的な受容性などを検証することになっている。

(日刊自動車新聞 2009/9/3)

E10 対応車排出ガス規制

環境省は E10 (バイオエタノール 10%混合ガソリン) 対応車の排ガス基準につき、中央環境審議会大気環境部会自動車排出ガス専門委員会が中心となって検討を進め、2010 年度を目処に答申をまとめる予定。E10 に関しては、国土交通省や経済産業省が公道走行試験を実施しており、環境省は、これらのデータをも照らし合わせた上で排ガス基準を定め、E10 対応車の本格的な市場投入と普及につなげるとしている。E10 対応車では、排ガス中の NO_x、CO、HC などのほか、アセトアルデヒドなどの未規制物質の排出や、燃料蒸発ガスへの対応が課題となっている。

(日刊自動車新聞 2009/8/3)

文責: 浜田秀昭 ((独) 産業技術総合研究所)